

より真説に近きと想う

『初瀬井路物語』を書く為の資料として

初瀬井路土地改良区

元工務係 安部

茂

目次

- 一 八甲田山
- 二 「初瀬のあゆみ」についての考察
- 二一 井路開鑿史
- 三 宮ヶ城伝説
- 四 初瀬井路
- 五 鶴清丸
- 六 宮ヶ城伝説と荷揚城
- 七 長宝水、永宝水、国井手
- 八 初瀬観音堂
- 九 初瀬の名称と日根野織部正について
- 一〇 たくさんの人を救った初瀬井路
- 一一 お初人柱初見として
- 一二 初瀬井路残酷物語
- 一三 作事奉行の測量設計について
- 一四 伊能忠敬の豊後の国測量
- 一五 方位盤の使い方

- 一五 円寿寺看板について
- 一六 山を塹(けず)り、谷を塹(しろつち)し
- 一七 農業水利偉人伝 #一〇
- 一八 松平時代の水路開削
- 一九 初瀬井路と神社
- 二〇 日根野家断絶
- 二一 県立図書館 豊の国ライブラリー
- 二二 府内藩村高変遷
- 二三 日根野織部正と持ち土手
- 二四 日根野織部正尊像
- 二五 あとがき

一 八甲田山

私は昭和四十八年夏、国道十八号線軽井沢バイパスの工事へ、東京土木支店よりの辞令を受け赴任する。「あずさ二号」の車中にて「八甲田山死の彷徨」を読んできました。当時の先輩が五月G・W(ゴールデンウィーク)に春スキーに行き、リュックサックには、小さなペナント、赤地のフェルト地に白字で「八甲田」を付けていました。この小説の作者は新田次郎です。後に「八甲田山」として、高倉健(福島大尉)、北大路欣也(神成大尉)、三国連太郎(山口少佐、大隊長)、新克利(後藤伍長)、加山雄三等の配役であり見た人も多くいることでしょう。あらすじを言えば、八甲田山は無く、八甲田連峰と言うべきです。

日露戦争が開戦近しを告げつつある時、雪国に置かれた第八師団は厳冬期を選んで、二つの雪中行軍隊があった。青森五連隊と弘前三十一連隊である。五連隊は総員二一〇名のうち五体満足なるは、倉石大尉、伊藤中尉、長谷川特務曹長の三名のみであった。明治三十五年一月二十九日「東奥日報」にて「未だ確報は得ざるも一隊二〇九名悉く凍死せし者の如く、悲惨極れり」とある。

青森五連隊に対して弘前三十一連隊（福島大尉）は連隊の将兵三十七名は一人の犠牲者を出すことなく、その距離にして二一〇km、十一泊十二日の旅程を踏破した。一方は全滅、他方は見事なほどの完遂という極端なまでの違いは、弘前三十一連隊にとっては青森五連隊を貶める事になる。あくまでも映画「八甲田山」のキャッチコピー、宣伝惹句の「八甲田で見た事は口外してはならぬ」であるが、一月二十九日悲報を伝えた。後藤房之助伍長の銅像は戦時の供出にもならず現在もあり、その場所では多くの人達が手を合わせる。その日十七時四分には陸軍省宛ての公電も発信されるとある。

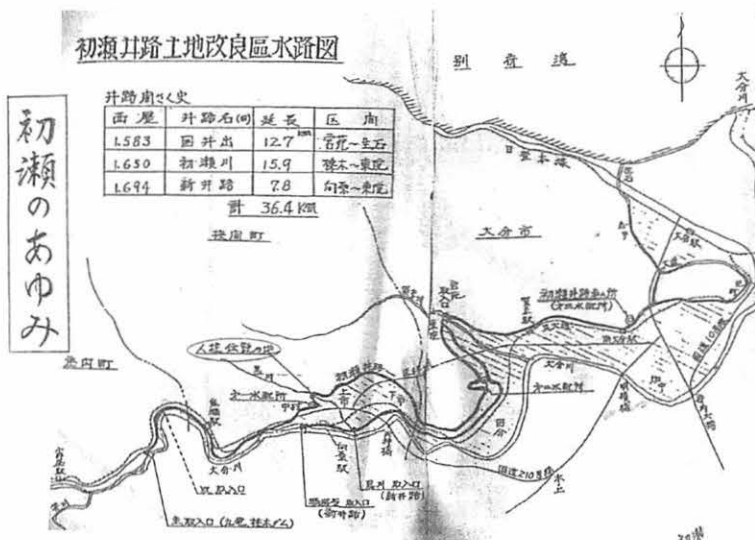
この事件は海外でも関心が高く、重大事件として発信され、イタリアの絵入新聞「ラトメニカ・テル・ユリレ」で紹介された。当時の新聞、特に黒岩涙香率いる「萬朝報」は筆鋒鋭く記述している。明治天皇より御下賜金あり、貞明皇后より、義手、義足下賜あり、靖国神社合祀となる。しかし福島大尉（高倉健）は、八甲田で見た事は後年、彼が青森の旅館にて書いた漢詩の一節「蹂躙迹腥過去路」「じゅうせんあとなまぐさし、すぎさるのみち」があるが、日露戦争に於いて戦死する。

以上長くなったが、宣伝惹句による映画錯覚が多くあるだろう。本題に入る。「初瀬井路錯覚」「井元氏錯覚」が約六十年近くも、史実に無き事が、新聞夕刊コラム「大分今昔」として昭和三十八年十月下旬の事である。是より流布伝播し拡散して行き、私に言わせれば、何故こういうデマを信用したのか？ 当時はコピーが発達しておらず、文献・資料に基づかず、想像力、創造力、いやこれは妄想力でしかないのである。

私は皆の今更何を、どうしようと言うのかと擲楡の声あるも、史実、旧跡、文書等を巡りて、より真説なものとする為に、従来の記述した所を糾していくべきであるとの思いから、筆を執った次第です。

二 「初瀬のあゆみ」 についての考察

全ての初瀬井路に於ける錯覚は、井元氏作製によるこの一文より始まり、約六十年の間、伝言ゲー



初瀬のあゆみ

| 年代 | 西暦 | 経過年数 | 創設者 | 距離 | 備考 |
|-------|------|------|--------|--------|----|
| 天正11年 | 1583 | 406 | 大友義統公 | 12.7km | |
| 慶安3年 | 1650 | 340 | 日根野吉明公 | 15.9km | |
| 元禄7年 | 1694 | 294 | 松平昭重公 | 7.8km | |

幹線 合計36.4km

第一水配所 支線 10.0km
 第二水配所 支線 14.9km
 第三水配所 支線 52.0km

合計76.9km

初瀬井路は、大分県内でも古い歴史をもつ井路であり、大分川左岸1000haをかんがいでいた。

現在の幹線は、3回にわたって開さくされている。その第一は、“国井出”として大分市大字宮苑より大分市大字生石までの間、約13kmが開かれた。時は、豊後・南薩貿易として有名な大友宗麟の子、義統の時代で、今から405年前、織田信長が暗殺された（本能寺の変）の翌年、天正11年（1583）である。当時のかんがい面積は、600ha位あったと思われるが、この区域は現在、大分市の中心部に属し、市街化となりつつある。

次に、現在の初瀬といふ名称となっている“初瀬川”とし、開さくされた井路は、庄内町大字榎木より抜間町を通って、前記宮苑に合する賀来川向かいの大分市大字東院に至るまでの間、延長約16km、かんがい面積およそ400haのようである。

この開さくについて、いろいろの文献や伝説も残っているが、概要を記すれば、今から338年前の慶安3年（1650）の春、時の府内城主（大分市）日根野織部の正吉明は早稲づくに辛苦する民をあわれみ、井路開さくを考え、家臣の清水与兵衛、大山助左衛門に命じた。この開さくにあらしめた2人は、領内の民人15才以上60才までの者の出役を命じ、完成までに延べ人員93、302人、延長139町56間とあるが、尚、驚くことは、これに要した日数が僅かに46日間とある。各地区別にそれぞれ勝負区域が割り当てられ、必死の競争が展開されたのか、今日では想像するほかない。

これも一度で完通成功したことは、言われていないようだ。危険箇所あり、欠損箇所も続出、真の完成までには、文字どおり血のにじむ多くの労苦が、重ねられてきたことだろう。

初瀬という名のおこりについても、種々取り沙汰されているが、古老の言によれば、この井路の途中、抜間町大字向ノ原字中村と字上市の間に、大分川の支流で黒川という谷川がある。この上に井路を通さなくてはならぬ地形があり、ここが一番の難工事であったと思われる。土をもって土手を築けど、築けど欠損し、ついに人柱を立てて、この完成を願った。伝説によれば、その人柱に種々織物の束、もし絹織の着物を横縞のみせ布（つくろいの布）をあてている着物を着ている娘がいたら、その娘を人柱に選ぶということに決まった。早速探していたら、たまたまお初という娘が、そのような着物を着ており、井路完成のため神に捧げる人柱とされたと言ふ。以後、欠損をくり返していたこの土手もおさまり、水が井路に満ち満ちて流れるようになった由。この犠牲者お初の名を取って、初瀬川と名づけたという。それ以後、この土手の手前中村部落と上市部落の村人たちは、お初の霊をなぐさめるため、毎年、お盆にかかさずお施魂鬼供養を続けてきた。

また、井路完成の証として、城主が榎木の取り入れ口付近の大分川左岸の岸壁に観音の彫像を彫らしめてあった由。この観音像も永年の風水害のためか崩れ落ちて、判明しがたいが、付近の長老は、凡そのあった場所を伝え聞いているとのこと。現在、上流にダムができ、川の横相は昔と変わっているが、観音淵という名は今も残っている。この取り入れ口より約1kmの間ほとんど隧道で、この掘削に要した労苦は並大抵のことではなかったであろう。幅2m高さ2mで現存する栗楳の隧道のかたい岩に刻みこまれた石のみのあと

ムのように、尾鰭がついてここに至る。然るに私は出来る限り、コピーを有効にしていきたいと思えます。

かたより、往時が偲ばれて、感無量であらう。

ずっと後になって、3つ目の井路ができています。これは、挾間町大字向ノ原より前記の初瀬川の末流、東院までの間で、延長約7 kmあり、上を流れる初瀬川の滯水をも受け入れて、一滴たりとも無駄にせぬよう下流に流すためであった。これを新井路といい、今から294年前の元禄7年(1694)の開さくで、時の城主は松平対馬守昭重である。以後この3線を併せて初瀬井路と呼ぶようになった。

管理者は、城主より郡長、町長、市長と、そして現在の土地改良区理事長と受け継がれている。

冒頭において記した如く、現在、大分市も昭和39年に新産業都市の指定による工業都市化の余波を受けて、下流においては住宅地急増の影響を受け、井路の維持管理に新しい苦感が生じている。しかしながら、人類生存にとって最も大切な食の根源を培う井路の流れは、時代が移り、人が変わってもその大切さは、変わっていないと思う。

井路を開さくし、守ってきた幾多の先人、先輩の方々の労苦と遺徳に感謝する祭典が、この初瀬井路にも受け継がれている。即ち最も偲ばれる初瀬川の開さく城主の日根野公の菩提寺である大分市上野の円寿寺において、毎年4月26日、この井路の完成の日をかたどって、現在も県知事、市長、町長を招き、関係者一同にて、盛大な祭りが行われている。

現在のかんがい面積285ha、組合員1,074人、幹線総延長3.6kmである。

幾久し 吉明けし 初瀬川

流れを 受けて

民も栄えん

(上野、円寿寺記念碑に)

日根野吉明公が詠んだ歌が、いつの間にか円寿寺前住職が詠んだ歌となっている。



私が調べた、書籍等としては次のとおり。

| | |
|-----------|--------|
| 大分市民読本 | 昭和四年 |
| 豊後伝説集・全 | 昭和七年 |
| 豊府閩書 | 元禄十一年 |
| 豊府紀聞・雉城雜記 | 天保年間 |
| 大分市史 | 昭和三十年 |
| 挾間町史 | 昭和五十九年 |
| 庄内町史 | 平成二年 |

二一 井路開さく史

①年度 国井手 天正十一年となつてゐるが、義統が吉統とあるは天正十六年であり、庄内町誌では天正十七年となつてゐる。

賀来郷、在隈の二郷庄のみで竹中氏になり南太平寺を経て千手堂町辰ヶ鼻迄しか届かなかつた。宮苑く生石迄は約十六kmある。従つて宮苑く在隈迄である。

然古大友義統、從東院川至在隈郷并笠和郷、成井手、名国井手、雖蒙黎民、水口小河而、早慮之年奇、其井水不到笠和郷中。

天正十年二月朔日、賀来莊 在隈々、笠和々ノ名主等相議メ、賀来莊東院川ヨリ笠和々ニ大井出ヲ掘ンテヲ贈フ。国主許命アリテ同十一年閏正月七日、佐藤參河守、上邑ニ永富得刀允・国分兵部少輔ヲメ、国分ニ監セシム。翌年同三月功被。俗ニ国井ト云。此井手、東院川ヨリ永興邑、今ノ水小屋下ヲ東ニ掘リ、南太平寺邑ニ達ス。当代古井手ト云モノ是也。其後、当府町直ノ後へ、領主竹中氏永興邑、今ノ水小屋ヨリ此大井出ヲ千手堂町辰ヶ鼻迄穿テ依テ果サス。岡町ヨリ生石邑迄、日根野氏賜封後、掘次ニ成ル也。

在隈郷井手之儀付而、辛勞之由肝要候、雖然末口尾之通申候、彼爾第一之事候之間、前々之辻堅固被添催、急度成就候様可被申付候、至田吹与三左衛門尉茂、重々以状申候條被申候、聊不可有緩之儀候、恐々謹言。

七月廿日

吉良越中入道殿

賀来兵部少輔殿

吉統 在判

①—2 ここに井元氏が四〇五年前は六〇〇ha位と書かれ、

榎木より東院迄が開鑿されたことによつて四〇〇ha、合計一〇〇〇haと書いているが、明治二十四年時で九六五町八畝五分であり、詳しく書けば六〇〇町歩では無く、豊後国史(岡藩唐橋世濟)に依れば、国領笠和郷(大分市中央部)田一七〇町歩、阿南庄八〇町歩、由原八幡社領、賀来庄 田二三〇町歩、永興寺領 田十三町八反、国分寺領 田一〇町歩、合計五〇三町歩である。

②場所及長さ

榎木田吹(タブケ)(由布市庄内町下榎木バス停付近)に堰を作り、東院迄 延長 一三九町五五間半(慶安三年)

一三九町×一〇九m〓一五・一五一m

五五間×一・八二〓一〇〇m 合計は一六・二〇八mとなる

五二・六間×一・八二〓九五七m(明治後期)

③人員 通常榎木取入堰より東院迄が、九三、三〇二人とあるが、織部正公は笠和郷中を経て生石迄届け耕地が無くなった時は祓川より海に放流する。初瀬のあゆみには、一度で完通成功したとは書かれていないようだ。危険箇所あり、欠潰箇所も続出。真の完成までは文字どおり血のにじむ多くの労苦が重ねられて来たことだろうとある。この文章を書いた人は、品の良い文に見えるが、水路というのを全く理解していない人です。先ず工事とは、工期と予算があり危険箇所は危険を除きながら施工する。欠潰箇所は事前に調査準備を怠ら

ない。そして、水管理は水奉行が居り一の小屋（挾間中村）、二の小屋（賀来中尾）、三の小屋（南大分府内地区永興）、最終は生石名主、二宮家が管理したのでしょうか。役員の選出は末流地区の人が多い。例えば挾間では下市地区等があたる。常に工事は一気呵成にやるのが工事です。従つての僅か四十六日間です。日本の土木技術は素晴らしく、ちなみに北海道新幹線が東京―北海道間最速四時間二分で結ばれます。青函トンネルは五三・八五kmを、竜飛、吉岡口よりピツタリ合わせています。水路は、稲に水を配ります。水を配る人が最初から、水路が何年もかかるとは考えられない。

宝永三年（初瀬河通水より五十七年後）大石家文書に依れば七九、八二三人である。あくまでも榎木―東院間は九三、三〇二人を唱えるのでしょうか？志た十ヶ村分として人数一一、四七九人合計九一、三〇二人。ここに二、〇〇〇人丁度の差がある。本当は後年の豊府聞書や雉城雜記には九三、三〇二人。数字の錯誤かと思うが、これについては、私は十八才の時から、土木技術者として生きて来ました。二、〇〇〇人の差を計算してみよう。測量をするには、踏査、選点、造標ぞうひょうがあり、その後、縦断、横断測量に基き、中心線、幅、計画高、深高を決める。江戸幕府より正保元年に、正法絵図としてある（阿南庄・庄内）の図面あり。先ず、二、〇〇〇人の人員錯誤がどうして生まれたか。大石家文書に依れば、八・二六八間×一・八二m 一五・〇四八m（本線）

一〇・六七七間×一・八二m 一〇・四三二m（志た）

農民 七九、八二三人（本線）

作業取 一、八八六人十二、八一〇人（志た）

家中（藩お抱分 六、七八三人（おが（大鋸） 志やかん

足軽、御小人）

計 九一、三〇二人となる。

下つて、承応元年（通水三年後）に駄原井手として、二、九八二人を要している。これは、二、〇〇〇人を九八二オ―バーする事となるので違うだろう。そこで作事奉行の清水与兵衛、大山助佐衛門に戻ろう。領主より命じられ兩名が携わった水路は、長宝水（慶安元年）蛇口井手、大石家文書より二、一八九間

二、一八九間×一・八二m 三、九八四m、志た 一、八九七間×

一・八二m 三、四五二m

これにより三十五町歩起こる。

永宝水（慶安二年・柿原井手）大石家文書に依れば、四、

一八一間×一・八二m 七、六〇九m

志た三、五二二間×一・八二m 六、四〇八m これにより、

五十七町七反を灌漑する事となる。

そうして、初瀬河（阿南庄新井手）となる。因みに後述するが初瀬人柱が初見として、昭和三十八年十月下旬の事です。前述の初瀬のあゆみ、井元氏作である。冒頭において記した如く、現在大分市も昭和三十九年に新産業都市の指定を受けて工業都市化の余波を受

け……本当に新産業都市、昭電、九州石油等が建設、稼働が始まったのは昭和四十一年、四三年、その後新日鉄が来る。「大分今昔」の渡辺氏は、「山弥長者物語」を上梓している。井元氏が初瀬井路の徴収係として入所したのが三十八年であり、ついお初の話は渡辺氏に面白おかしく話したら、活字となり、それを糊塗するが如く、「初瀬のあゆみ」、「初瀬井路改良史」に蛇足として書いていく。ここで私は土木技術者たる作事奉行が関知しないのが疑問であった。井元氏を始めとして、曾根崎氏、二宮氏、吉田氏に伝えたい。「お初人柱はない」

この話、哀話として、大分県中に有名であるが、「豊後伝説集・全」を編さんした昭和七年に第一高等女学校の生徒に依る大分県下の伝説、逸話を集録した中に宮ヶ城伝説がある。

三 宮ヶ城（大分市荷揚町）

昔府内の城に殿様が居られた頃、城内に櫓やぐらを築く事となった。毎日人夫を傭やとっては石で一段一段と積ませていたが、いくら毎日皆で一心になって築いても何時の間にか壊れて、どうしても立派な櫓を築く事が出来なかった。そこで家老達は相談の末、誰か人柱に立てて、この櫓やぐら閣を立派に仕上げたいと考えた。いろいろ意見もあった中から、最後に選ばれた人が只今の東新町に父子二人の侘住いわぢぢいをしているお宮という娘であった。

父子は、悲嘆にくれたが、お上の言葉であるので、仕方なくその人柱に立った。するとそれから毎日積み上げた石は立派に築き上げ

られて見事に出来上った。それでその娘の名をとってこの城を宮が城という様になった（庄田千代子）

（補）荷揚城築城の時、貧の為に我から身を売って人柱となった娘の墓が、今の松栄神社の付近にあるそうだ（川辺千鶴）

四 初瀬井路（大分市元町）

府内城主の日根野織部正は農村開発のために、初瀬井路といふ水路を開いた。その時城主よりその任に当たったのが、清水与平といふ農民であった。彼は何月何日迄に必ず井路を開くと約束した。そこで織部正は約束の日に龍ヶ鼻迄出張して、水の来るのを待たれたが、約束の時刻迄に水は来なかった。そこで織部正は怒って城に帰られた。やや遅れ汗と泥にまみれながら与平は水と共に龍ヶ鼻までやって来たが既に殿様は帰城されたと聞いて、自責の念に堪えず、腹をかき切つて果てた。その付近にこの人の墓もあった筈だといふ。（岡田ヤスエ）

五 鶴清丸

これは、私の近くで行われている、やせうま伝説に関する事なので詳細は省くが、鶴清丸はある落度から豊後に流罪となり、由布川村黒野へ乳母と共に館を建てて住んでいた後、植田庄塚野にて悪人の為に殺された。塚野地区には紅い花がそれ以来咲かない由。

以上豊後伝説集・全、郷土史蹟伝説研究会（昭和七年）、これを書いた人は、豊府紀聞を著あらわした戸倉貞則の文書を筆書きした市場直

初瀬觀音堂 標木邑

同村田塚山下、標木川ノ岸、壁中ニ一小堂アリ。眞實ハ觀音大士ナラズ。慶安中、日根野吉明、封内ノ水田井堰ノ用ニ、此川ヲ堰留メ、險山ハ洞穴ヲ穿テ、平地ハ溝洫ヲ通ズ。府城ノ西部ニ至テハ、其屈曲十有餘里程ニ及ブ。實ニ希世ノ一大業也。家士清水與兵衛日根野氏分限高丸石 大山助左衛門房十石 ヲシテ、其事ヲ司シム。落成ノ日ニ臨ンテ、此川水ヲ決リ通セシム。日根野氏モ促駕シテ來臨ス。土地高低一ナラズ。通水ノ利害、群衆潮ノ如クニ涌ク。日根野氏大ニ怒テ、二士ノ其職ニ幹ヲラザルヲ責メ、且其持ツ所ノ手籠ヲ取テ床几ニ掛リ、川水ヲ臨ンテ歎息シテ曰、抑モ此大業ヲ起ヤス、封内蒼生ノ爲ニシテ、吾レ戰國ニ生レ、汝城野戰、一モ汚名ヲ取ラズ。其武功ヲ以テ忝ク當國ニ封セラル。今ヤ七十ニナンノトシテ此事成ラズンバ、何ノ面目アリテカ隣國ノ精兵ニ面ヲ合セン。此一舉ニ吾ガ生死ヲ委ンノミ。時ニ通水案ノ如ク所々停滯セシカバ、清水氏天ヲ仰テ歎ツテ曰、吾レ此職ヲ奉ジテヨリ、朝練夕磨、粉骨碎心シテ一點ノ私意ナシト雖、龍王河伯、通水ヲ欲セザルカ、唯主君、封内ノ蒼生安全ヲ慮ル所ニシテ、カ、ル大業ヲ發起ス。若シヤ上天ノ神明佛陀、臣ガ赤心ヲ憐ミ玉ハ、速ニ水利ヲ成シ、蒼生ヲシテ長ク安穩ナラシメ、且ハ主君ノ怒ヲ宥メ玉ヘト、云終テ自裁ス。カ、リシカバ神佛何ゾカ、ル英士ヲ感應ナカラシヤ。不忠讒ナル哉、停滯セル水、忽チ一怒濤漲リ來テ、土石ヲ穿チ砂泥ヲ卷キ、通水滔々タリ。愛ヲ以、封内ノ民、旱魃ノ患ヲ除キ、汲水ノ苦ミヲ省ク。今ニ至テ其德澤誰カ是ヲ仰ガザランヤ。即チ件ノ觀世音ハ、此清水氏ノ靈ヲ祭リテ、佛家ニ水相觀ノ事アルヲ以、日根野氏浮屠ノ輩ト謀リテ、此堂ヲ創立ス。(略中) 此外、所々井出ノ明神ト云モノアリ。皆清水氏ヲ祭ル。(略下)

しかし元祿に成る『豊府閩書』には、既記の如く清水與兵衛は歸城して、吉明よりその大功を感謝されたところ、また前引の四月二日附白杵領との交換文書にも、與兵衛の署名があるし、さらに歿日を三月二十六日としている等より見て、假令何かの事由で自裁したとしても、それは初瀬川竣工の日であつたとは認め難いのである。

豊後伝説集・全

昭和七年

農民与平の記述が
いかに間違いであ
るか。「お宮人柱」
もまた然るなり。

なお清水家家系図には、与兵衛は三月二十六日、
初瀬川水揚出来、即日死去とある。これについて天保年間に残る雉
城雑誌は左の如く記されている。

雉城雑誌 初瀬観音堂 榎木邑 安部茂口語訳

榎木村、田吹山下榎木川の岸に小堂在り、真実は観音大士ならず
慶安中封内、水田の用に此の川を堰き止め、峻険なる山に洞穴を穿
ち、平地は溝渠を通ず、府城の西部に至っては、其屈曲十有余里程
に及ぶ、実に稀世の一大業也、家士清水与兵衛、大山助佐衛門をし
てその事を司しむ。落成の日に臨んで此の川の水を決り通ぜしむ。
日根野氏も促駕して来臨す。土地の高低も一つならず。通水の利害、
群議、潮の如く湧く。日根野氏大いに怒りて、清水、大山両氏の其

職にて、幹足らざるを責め、且つ其の時持つ所の手槍を取つて、床
几に据り、川水を臨んで嘆息して曰く、そもそも此大業を起すのは
封内蒼生の為にして吾、戦国に生まれ攻城野戦一つも汚名を取らず、
其武功を以て、忝（かたじけな）く当国に封ぜられる。今や七十歳
に垂（なんな）んとして、此の事成らずんば、何の面目ありてか隣
国の諸侯に面を合わせん。此の一举に、吾が生死を委ねんのみ。時
に通水、案の如く所々で停滞せしかば清水氏天を仰いで嘆じて曰く、
吾この職を奉じてより朝鍊夕磨粉骨碎身して一点の私意無しと雖
（いえど）も竜王河伯、通水を欲せざるか、唯主君、封内の蒼生
（人民）安全を慮る所にして、かかる大業を発起す。もしや上天の
神明仏陀、臣が赤心をあわれみたまわば、速に水利をなし、人民を
して長く安穩ならしめ、且つ主君の怒りをゆるめたまえと、言い終
わりて自裁す。かかりしかば、神仏何ぞかかる英士を感応なからん
や。不思議なるかな、停滞せる水、忽ち一度に怒濤、漲来て土石を
穿ち砂泥を巻き、通水滔々たり、これを以て封内の民、旱魃の患い
を除き汲み水の苦しみを省く。今に至りて其徳沢（めぐみ、おか
げ）、誰か是を仰がざらんや。即ち件の観世音は、此清水氏の靈を
祀りて仏家に水相観の事あるを以て日根野氏、浮屠の輩と謀りて此
堂を創立する。（中略）此外、所々井出明神と言うものあり、皆清
水氏を祭る。しかし、前述の「豊府聞書」には清水与兵衛は帰城し
て吉明公よりその大功を感謝されたとある。

初瀬の名称と日根野織部正について

豊府聞書に依り時の領主、日根野織部正吉明公が「初瀬河」と名付けたとある。日根野の地名は神話時代に、日の国(神の国)と根の国(あの世)の中間、この世と言う意味で日根野に成ったらしい。大和物語の一節に、出家した宇多天皇が日根野辺りにたどり着き、付き添いの橋利良が、「日根野」を詠めと命じられ、次の一首である。

ふるさとの旅寝の夢に見えつるは

恨みやすらむまたと問わねば

※旅寝の(たびねの)

世上(世間一般)では、上手い歌と言われているとのこと。

織部正公は本貫地日根野庄より、奈良県桜井市初瀬(はせ)山迄約50km、三輪山迄47km共に450mから480m級であるので、葛城山系に遮られて見えないようである。

なお長谷寺迄52km、いずれも直線距離です。約42kmの地点に広瀬大社がある。

葛城山系の前面あたり、奈良盆地を流れる、畷雄川、佐保川、初瀬(はせ)川、寺川飛鳥川、曾我川、葛城川、高田川、8つの全ての川の合流点に建つ社が、広瀬大社であり合流した川は大和川と成る。天武天皇が水と風を治めれば安泰であると考えた。

広瀬大社と龍田大社を一对の社とした。また前述の三輪山には、大神(おおみわ)神社があり祭神である大物主大神は大國主命と同一であるとして、その化身である白蛇が棲むと言う「巳の神杉」、古来より雨乞いの信仰があり、また広瀬大社は水を司る神社である。また大和川を挟んで風神を祀る龍田大社がある。その中間には法隆寺がある。

法隆寺の建立に際して、聖徳太子が龍田大社に日参して工事の安全を祈願したという。落慶の際に神社を創建したという。

奈良県桜井市初瀬(はせ)山、初瀬(はせ)川、万葉集には、全て泊瀬川となっております。NHKの毎週木曜日の古館伊知郎、宮崎美子等の「日本人おなまえっ」で長谷川の苗字の起源として長谷(初瀬・泊瀬)の観音に由来すると報じた。

平安貴族が、如何に多く長谷観音を信仰していたかは、「源氏物語」「枕草子」「更級日記」などの古典で知ることができる。また長谷寺は鎌倉も有名であり鉄道唱歌の1節に

長谷観音の堂近く、露座の大仏おわします。

与謝野晶子「鎌倉や、御仏なれど」の歌の有名である。御詠歌として(長谷寺・奈良)は次の歌です。

いくたびも、参る心は、はつせ寺

山もちかいも、深き谷川

吉明公の幾久しも、幾度(いくたび)も、どこか似ていませんか。長谷観音(十一面観音)は「わらしべ長者」物語の案と成った靈験あらたかな観音であります。

昭和7年刊行の「豊後伝説集全」に清水与平はあるが、「お初」は出てこない。

古老の話として挾間町誌には、227ページと、伝説(上市老人クラブ)の話では人数、延長、日数「お初人柱伝説」761ページに記述がある。OBS・大分歴史事典¥27,000には、「お初の涙が水を呼ぶ」とある。昭和62年大分市史にも初瀬井路・お初人柱があるが、昭和38年10月頃大分合同新聞夕刊コラム大分今昔に人柱初瀬井路の記事があり、是より、流布伝播して行く。枕詞は諸説あるが、古老の話・人柱初瀬井路を創作したであろう古老の言葉好きな人は、柏野の公民館の石撞説明板にも古老の二文字大分県立図書館・豊の国ライブラリーには、金池小学校の文集に地区の古老の話として詳細な伝承が記されている。古老の話しと人柱はもうこの辺で改めて、作事奉行、清水与兵衛・大山助左衛門両名を顕彰すべきだと切に想うものであります。

たくさんの人を 救った初瀬井路

私たちは狭間小の周りを流れる「初瀬井路」について調べようと、狭間町ボランティアアガイドの吉田洋子さん(69)に話を聞きました。吉田さんは由布市武術太極拳、歴史と古文書の会長など数多くの活動をされています。



吉田洋子さん

吉田さんのお話では、江戸時代のはじめの頃は水路も

なく、ママやイモ、ヒエなどを食べていました。村人は水不足でコメも作れず困っていました。そこで水路を造ることにしました。水路を造るには、土をものすごい高さまで盛らなければなりません。昔は、くわやつるはしなどの道具しかありませんでしたが、1カ月で延べ約9万3千人が働いて造り終えたそうです。

しかし、雨が降ると土手が崩れてしまうので、當時の人々は「誰かを神様のいけにえにするしかない」と考えました。そこで、縦じまの着物を着て、横じまのふせをあてている若いきれいなお初さんに人柱になりました。

人柱とは、生きてそのまま埋めることです。それから井路は一度も壊れていません。このことに感謝した人々は、お初さんの名前を付けて初瀬井路という名称にしたということです。私達も、昔の人々の苦労やさまざまな思いに感謝して、井路を流れる水で作ったお米を食べたいと思います。



狭間小の周りを流れる初瀬井路

前記 たくさんの人を救った初瀬井路

吉田さんがユーチューブ等で、お初の話がされていた。江戸時代の初めというが関ヶ原から五十年後であり、当時分家は、それなりの恵まれた家で無ければ分家は出来ない。無論土地売買は禁止であり、土地は全て幕府の所有である。マメやヒエ、イモ等を食べていたと記しています。

もともと、挾間地区、賀来庄二三〇町歩は、阿南庄八十町歩、領家一条室（むろ）大納言、地頭職守護並挾間尼公生蓮孫とあり、松富名三十五町を挾間尼公である挾間村の名がある、松武名は三十六町を有している。嘉元四年（一二三〇四）阿南郷は国免から勅免の域に進んでいる。昔から、下市、上市とあり。市とは、戸次市、植田市、挾間市あり。駅亭には、伝馬五丁を置くところある。植田市は、大字市であり現在ハンズマン辺りです。賀来駅付近が小字市であり、上市、下市は字の通りです。地形的に見ても河岸段丘を呈しており、北方や、赤野、黒野の方より、雨水、湧水（伏流水）があれば池を作り、堤を作ったのだろう。

ここで、吉田さんに聞きたい。

正保郷帳（一六四四年）通水六年前（初瀬河）

下市村 三二〇・三石

上市村 三〇〇・六石

中村 三九・二石

元禄郷帳（一六八八年）向ノ原新井手 元禄七年

元禄十四年時

下市村 四〇二・五石

上市村 三三二・六石

中村 四六・一石

明治初年地租改正まで行く。昔から、「食こそが国家なり」であり、古くから土地の開けた上市、下市がアワ、ヒエ、イモとはどうみてもおかしいのである。

吉田さん、貴方はもち土手の水路延長がいくらか解りますか。約二十m位である。河の水面から高さ十三mです。放水門（荒手）があるが、地形を生かして、上流（黒川）に水勢を分散せしめて、放水している。下市八坂神社前の立看板に、もち土手が何度も壊れたから人柱を立てたと書いてある。

下市村は通水より一五〇年後（一八〇〇年）に、如何成大旱にもいかに大かんになろうと而も早損等に遭わず、この御仁政に感謝して年々井手の明神として祀ってきたが、とくに一五〇年にあたる今年「織部頭（おりべのみ）様の御大徳井手の御恩に感じて百五十周年祭を催したい旨の願いを藩と殿様に出している。

今を過ぐる二十五年前、山王橋（山王神社先三〇〇m）がある。龍原挾間線である、龍原側（山王川右岸は橋台高七m、挾間側（山王川左岸）は橋台高十三m、延長約三十m鋼桁橋、ほぼ真中で直線から曲線となる。現在の実勢価格にすれば、約二、八〇〇万円です。これはもち土手と同程度の工事であろうと思う。

総工費 もち土手 ￥二八、〇〇〇、〇〇〇—

材料費 二十五% 大分川より石砂の運搬、漆喰等

二八、〇〇〇、〇〇〇×〇・二五〥七、〇〇〇、〇〇〇

労務費 六十五% (あくまでも現在の価格 一五、〇〇〇/人)

二八、〇〇〇、〇〇〇×六十五%〥一、八二〇、〇〇〇/一五、〇〇〇

一、二二三

諸経費 十% 二八、〇〇〇、〇〇〇×〇・一〥二、八〇〇、〇〇〇

とした時、二、〇〇〇人の錯誤があるとしたが、二、〇〇〇人―

一、二二三人〥七八七人

一五・二五二km/一八二〥五二六・七間

水路の人夫として十間当り十五人で使役したと計算すれば、

九三、三〇二人が解決できる様である。

しかし、皆様方、工事費二、八〇〇万円程度の工事であり、積水ハウス、一条工務店、住友林業等ハウスメーカーは、八十五万円/坪当り、二八、〇〇〇、〇〇〇÷八五〇、〇〇〇〥三十三坪であるからして、僅かに三十三坪の家を建てる度に、人柱を一人ずつ埋めるという、非現実的な事があるでしょうか？私は吉田さんがお初のいわれがどこから出たのでしょうか？お初の墓があるという、円寿寺の織部正霊廟の中に、平成七年に井元氏が総代(役員)時に造ったという、お初の魂魄は何処にありや。ただの石ころでしかない。それから彼の人が中村と上市でおせがきを欠かさずしていたとの事、中村には即願寺があり、宗旨は浄土真宗大谷派(東本願寺)で門徒が、中村・上市に多くある。門徒はおせがきはしない。もしおせがきの時、お初の戒名は何というのか？施主お布施は如何にしていたのでしょうか？中村は上流側であり、もち土手が壊れようと関係な

し。何故中村地区の人がお初を祀るのか？それは下市く賀来く南大分く府内地区の人が祭主となるべきでしょう。

初瀬のあゆみを執筆した人や吉田さんには辛らつでしようが言論の自由であり後世の人がこの一文を読んでお初の事を終りとしてたい。

一一 お初人柱初見として

お初人柱の初見として、昭和三十八年十月下旬、大分合同新聞、大分今昔(原文のまま)

初瀬井路残酷物語り

水田が水を要求する初夏から秋口迄の数ヶ月。初瀬井路は満々と水をたたえて配水を怠らない。どの様な日照りが続いても、まず大分川の水が枯れない限りは、初瀬井路の恵みを受けている田は泣く事は無い。

初瀬井路の歴史を略記する。天正十一年(一五八三年)に賀来、荏隈(南大分)笠和(旧市内)各郷の熱望により、大友義統が東院川(賀来)から、笠和郷に至る十二km余の井手を掘らせたのが最初である。これを「国井手(または宮苑井路)」と呼んだ。ところが東院川は大分川の支流で、水量が少なく旱ばつのさいは笠和郷まで水がこない。この欠陥を除くために、日根野吉明が慶安三年(一六五〇年)庄内町榎木から大分川の本流の水を取り入れて、これを結ぶ十五k半にも及ぶ大工事を起こした。これが初瀬井路である。

明治八年に初瀬井路と宮苑井路(国井手)は水源を一つにしているから名称も統一すべきであるという議が起つて初瀬井路

一本にした。それまでは、東院川を境に宮苑、初瀬の二つの名前だった。

藩政時代、井路の管理は、藩が直接やっていたもので、永興、賀来、挾間の三ヶ所に水奉行所が常駐していた。奉行の下に井守りが数人いて、奉行の指揮を受けて監視の任に当たっていたのである。

永興の奉行所は、現在初瀬井路土地改良区事務所的位置にあった。土地の人は「お小屋」と呼んでいたそうだが、昭和三十二年に事務所を新築するさい「お小屋」は畑中の人に払い下げた。いまも畑中にあるが原形をとどめない。

水奉行の仕事は明治になって戸長に移ったが、現在は常設の配水係長がいる。この配水係長を年寄は今でも「奉行」と呼んでいる。井守りはどうもことばが悪いというので「監視員」の呼び名に変わっている。

「初瀬」の名の起りは人柱物語とむすびついている。榎木から延びてきた水路が挾間の黒川にはばまれたので、これをまたぐ、「持ち土手」を築くことになったが黒川の水勢に押されて、すぐに流されてしまう。そこで水神をしずめる為におきまりの人柱をたてることになった。選ばれたのがおハツという娘。生きながら土手の底深く埋められたおハツの霊に守られて、堅ろうな持ち土手が築かれた。そこで、おハツの名を永久にとどめる「初瀬」の名をつけたというのである。当世流に言えば「初瀬残酷物語り」

封建時代は、工事の進捗や成功をはかる権力者の一つの政策として人柱のいけにえを、よく使っている。「神にいけにえを捧げる」

ことで信仰に弱い民心をつかみ、苦役の領民の奮起をうながしたのだ。初瀬井路にしても、これだけの大工事を短期間にしあげようというのだから、人柱はありうることだ。お初の犠牲は伝説とばかりはいえない。

黒川をはさんだ中村、上市の両地区は毎年盆に持ち土手の上にロウソクを立てて並べてお初の供養するのがしきたりでいまも絶やさず続けているということだ。

以上原文のまま

※初瀬のあゆみの最後に「この取入口より1kmの間ほとんど隧道で、その掘削に要した労苦は並大抵のことではなかったであろう。幅2m、高さ2mで現存する素掘の隧道のかたい岩に刻みこまれた石のみのあとかたに往時が偲ばれていて感無量である。」と綴っているが、明治後期の頃は下瀬火薬や黒色火薬等があり、石ノミのあとなど一切ない。何百年前は石ノミで掘ったであろうが、湿気が多いのか苔等があり、長い年月ノミのあともあり見かけない。風化している。この1kmの間は「発破」で貫をあげたのだろう。天盤てんぱんはかなり崩落が見られる。私は土木技術者であると共に、国家資格「発破技士」でもある。

一二 作事奉行 清水与兵衛と大山助佐衛門兩名における水路の測量、設計、施工について

再三申し上げた如く、私は土木技術者である。現在は建築技術者の方がスマートであり脚光を浴びるが、土木技術者は都市インフラ

を形成し、欧米では、市民工学（シビルエンジニア）として尊敬されていく様である。

然るに、永宝水 七・五km（枝井路六・三km）

長宝水 四km（枝井路三・四km）

初瀬井路 十六・二km

長宝水（慶安元年）、上淵井手（慶安元年）

永宝水（慶安二年）

初瀬井路（阿南庄新井手・初瀬河）（慶安三年）

以上三年間で四ヶ所の水路を測量、設計、施工監督したのは、家士九石 清水与兵衛、家士十二石 大山助佐衛門です。

通水の日に、仲々水が来ないといって責任を感じて自裁したという技術者のことは、豊府聞書、雉城雜誌、碩田叢史等にある作事奉行、兩名の事は、検証せず、史実に無き「お初」がどの文献を見ても近世出ている。組合員を始めとして、井路に関する人々が、史実に無い人を何故に信用しているのでしょうか？黒川を横断するには、仮排水路を造り、サイフォンの原理で貫（トンネル）を大きくすれば、水流はたかが知れた川である。そうして、横断するには、板にて三方張の開渠、荒手（放水門）も板にて函渠（BOXカルバート）にて排水する。私がもし監督ならば、二三日の短時日で持ち土手を通過できるでしょう。どのだれが陰陽師を呼んだり、人柱の人選をするひまなど無い。作業は進む。これが現実です。皆様方は「井元錯覚」に騙された。残念ながら約六十年であったと思います。

前回の挾間史談六号の五十一頁の下段に清水氏、天を仰いで嘆じて曰く、吾この職を奉じてより、朝練夕磨粉骨碎身して一点の私意無しといえども、竜王河伯、通水を欲せざるか、唯主君、封内の蒼生安全を慮る所にして、かかる大業を発起す。もしや上天の神明仏陀、臣が赤心をあわれたまわば、速に、水利をなし、人民を長く安穩ならしめ、且つ主君の怒りをゆるめたまえと、言い終わりに自裁す。かかりしかば、神仏何ぞかかる英士を感応ならんや。不思議なるかな。停滞せる水、忽ち一度に怒濤、漲来て土石を穿ち砂泥を巻き、通水滔々たり、これを以って封内の民、早魘の患いを除き、汲み水の苦しみを省く。今に至りて其の徳沢、誰か是を仰かざらんや。即ち件の観世音は此清水氏の霊を祀りて仏家に水相観の事あるを以って、日根野氏、浮屠（石塔）の輩と謀りて此の堂を創立する。清水家文書に与兵衛は三月二十六日初瀬川水揚出来 即日死去とある。

この一節の中に、吾この職を奉じてより朝練夕磨粉骨碎身して一点の私意なしとあり。

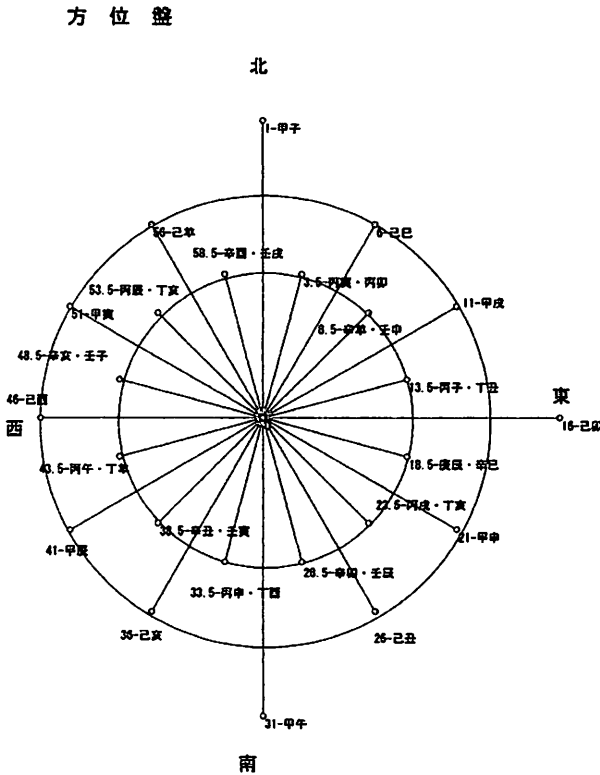
一三 伊能忠敬の豊後の国測量

伊能忠敬が府内には文化七年（一八一〇年）二月。忠敬は小倉、中津、国東半島の海岸部、杵築、日出、別府を経てその中に、前述の生石村庄屋二宮与佐エ門、来鉢村（下市か）大庄屋二宮藤太夫、駄原村庄屋安部弥兵エ。二月十一日より、府内領代官手代人夫方、岩田嘉佐衛門、安部孫十郎は、別府を来訪挨拶をしている。府内藩

日記に依れば、四月十二日別府村出立、田浦村四極山麓を通り、笠縫島の脇、浜小屋で中食、後手白木村、生石村（笠縫島は名所なり、豊前国にもあり）。駄原、勢家、沖浜分まで測す。宿泊所として、橋本屋作佐衛門、家作往にして大いに広し、酒造七〇〇〜八〇〇石醸す。

領主より、勘解由（忠敬）に眞綿二把、坂部は眞綿一把、帯一、下河辺、青木江眞綿一把、内弟子三人、待三人江帯一宛、棹取兩人も帯一宛、小者五人に鼻紙贈即受納此夜晴、測量、曆局へ書状を出。朝鍊夕磨であり、北極星（北辰）を基準にして測量するでしょう。

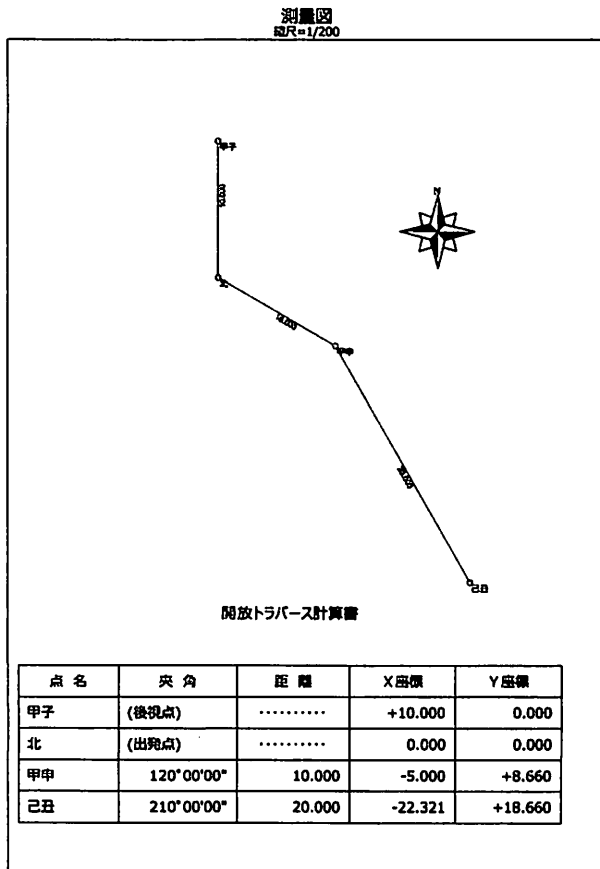
一四 方位盤の使い方



納音^{なっちゃん}、干支にて六十年、つまり一年を六度として、私なりに方位盤をパソコンにて作った。（数字から1をマイナスしたのが現在の度数です）。

※現在は北を0〜60とするが江戸時代は0という概念が無い故、数字から1をマイナスすれば良い。例えば東（16 | 1） || 15 × 6度であり90度となる。

初編 - JT02 開放トラス



一五 円寿寺看板について

私は再度円寿寺の看板を見に行つた。やはり、お初に関する事は無かったが、作事奉行 清水与兵衛、大山助佐衛門の両名は、長宝

水、永宝水、初瀬川を設計した書類が一五〇枚を越したと小さく看板にあった。「お初」を喧伝けんでんをするものだから、本日の新聞 令和二年一月十八日付で、南一郎平、「日本三大疎水の父、没後百年祭に女優の賀来千賀子が講演するとの事、挾間町出身者がこそぞつて、「お初」をいわずに、日根野織部正、作事奉行 清水与兵衛、大山助佐衛門、滝吉弘を真説とした事を著していききたい。

南一郎平は技術者でなく、プロデューサー、つまり那須疎水等は皇族、華族の援助を受ける等とあり、実際は広瀬井手より内務省勤務及び疎水関連は三十九才、四十九才 十年であり、鉄道局長井上強に請われて、主に北陸地方の鉄道建設に尽力し、その関係で財を為して、広瀬井手より、米を贈呈を断つて地元民が南尚神社を建立する。一郎平より尚(たかし)となる。

円寿寺には日根野織部正公を九州目付として、家光より下命があったとして御廟の前に、九州大権現と書いているが関ヶ原後三十四年後に国替となったのである。

そもそも、九州目付は、小倉藩、小笠原家で外様で雄藩の多い所に海防も兼ねて、幕府より命じられている。

九州に於ける諸藩

| | | |
|------|-----|---------|
| 福岡藩 | 黒田家 | 四十七・三万石 |
| 熊本藩 | 細川家 | 五十二万石 |
| 薩摩藩 | 島津家 | 七十七・八万石 |
| 佐賀藩 | 鍋島家 | 三十五・七万石 |
| 久留米藩 | 有馬家 | 二十一万石 |

小倉藩 小笠原家 十五万石

上記のとおりである。円寿寺前住職の誤りの記述や、井元氏のかしわの区史に、日根野織部正公が、島原の乱を平定するとあり、山弥長者関連の渡辺氏等三人がまさに、荒唐無稽なる文章を呈しています。

一六 山を塹(けず)り、谷を壘(しろつち)し

牛については、牛糞が注目される。インドやモンゴルでは、牛糞を乾燥させて燃料として使用する。牛糞は火薬の原料ともなり、発酵すると窒素分が化学変化を起こし、黒色火薬の原料となる硝石が生成される。ヨーロッパではかつて家畜の小屋から硝石を得ていた。日本でも戦国時代から、糞尿や草・土を原料として生産している。その際、石灰質の土壌だと硝酸石灰ができやすく、生産性が上がる。とくに津久見、白杵地方、白杵県は、慶応四年にはカマス五ヶ年で三十万七、〇〇〇俵を京都中立売御門被免仰付を搬出してゐる。慶安年間にも、日根野織部正公の長子一吉の室は、稲葉能登守の娘であり、水路底部(インバート)に漆喰を使用したであろう。大分市史(昭和三十年刊)第七節 初瀬井手の開通一三五〇頁のうち四六三頁第一行の中に「山を塹(けず)り谷を壘(しろつち)し」とある。円寿寺 龍ヶ鼻(元町・古国府境)は荷揚城築城の折、四神想応の左青龍の地である。ちなみに前朱雀は飛来山(霊山)です。

一七 農業水利偉人伝 #一〇

日根野吉明（豊後府内藩主）

日本一農民に大切にされた殿様

作成は大分県農林水産農村整備計画課

この冊子の間違いは、数多く見受けられる。

一、幾久し吉明られけし初瀬川

流れをうけて民も栄えん

上野円寿寺にあるという。吉明公を讃えて領民が詠んだというが、五七七七七になつておらず、五八五七七です。吉明公は、和歌や詩を得意としており、豊府聞書に次の詩がある。参考にされたい。

寛永十六乙卯年春正月正歳旦詩七言絶句。

江海春回客未還 孤雲飛処望郷関

紙鶏熾燕真兒戯 惟有梅花開笑顔

意味として、

江海春回りて客未だ還らず 孤雲飛ぶ所、郷関を望む

紙の鶏、熾燕真兒戯の如し 唯、梅花有りて笑顔開く

私は、菅原道真公の飛梅に想いを寄せたか、江海（東京湾）を越えて下野国壬生を想い出し、懐旧の情あふれる詩であろう。

私は、大分西部森林管理署の林道の橋梁、トンネル調査で、九重町の平家山（へいげざん）に行った時、いわゆる平家の落人の立看板あり。それには、平家一門は、壇之浦にて敗れ、日出の海岸より此の地に来る。ここより、日向椎葉、肥後五木の地へ行くところ。

織部正公、正保二年中冬、豊後府城之時有故徑 玖珠郡題す平家

山詩（七言絶句）

伝聞平家此山籠 盛者必衰一夢中

紅葉戦時雲赤起 赤旗城旆以飄風

等、作詩しており、豊府聞書に依れば水洋々として流通して東院河に入る。城主これを見て即ち「初瀬河」と名付け大いに歓喜して曰く、吾寡つて、蛇口柿原井出を成し、今また此の井出を興すに数月を経ずして速やかに成る。即ち石師をして観音の影像を次いで初瀬河、長宝水、永宝水に並びに城主の自名および、清水氏、大山氏の名を水口の岸壁に彫り付しめ、以て井手の成るの証となす。また諸士および領内の名主等と酒を酌み、井出を賀して云く。

幾久し吉明（よしあけ）られき初瀬川

流れを受けて民も栄へん。

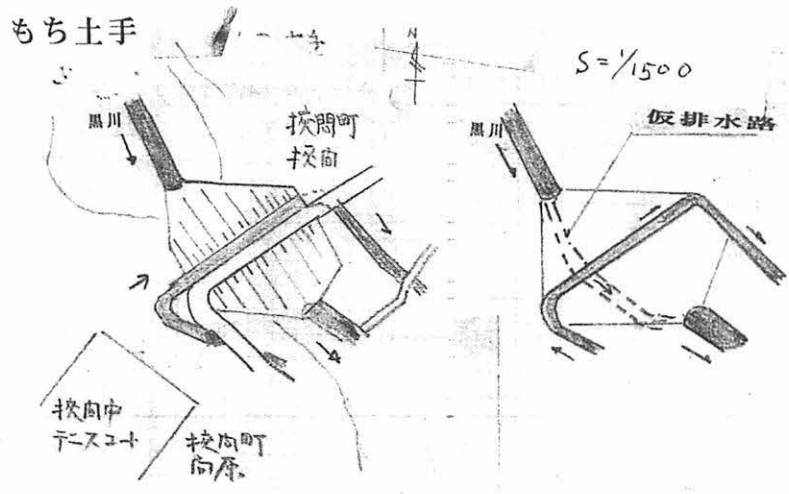
然して府主城へ帰る

かくの如き文献もあるにも拘わらず、井元氏、円寿寺の前任職は、上記の歌を領民が織部正公を讃えて詠んだと書いているが、二人共裏を取っていないのでこういう事になる。歴代の事務長は、これを信用して来たのでしょうか？

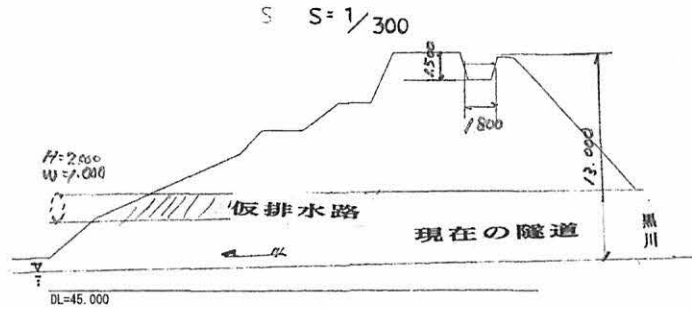
お初という名前の由来

全くのつくりばなしであり、イメージの図があるが、誰が書いたか知らぬが黒川水面より十三m、延長二十mであり、私が工事責任者ならば二〜三日で通過するでしょう。

先ず湧水処理を完全にする。三和土等で湧水遮断し全員で良く踏んで固め、厚さを一定にして層状に転圧し、盛り土をする。こうして強固な土手を造り、且つ隧道を大きく黒川の水を排水出来る様にすれば「人柱」はいらない。作事奉行の、清水、大山両氏も「もち土手」いわば堰止めダムに耐えうる様に考えたのであろう。魂を込め

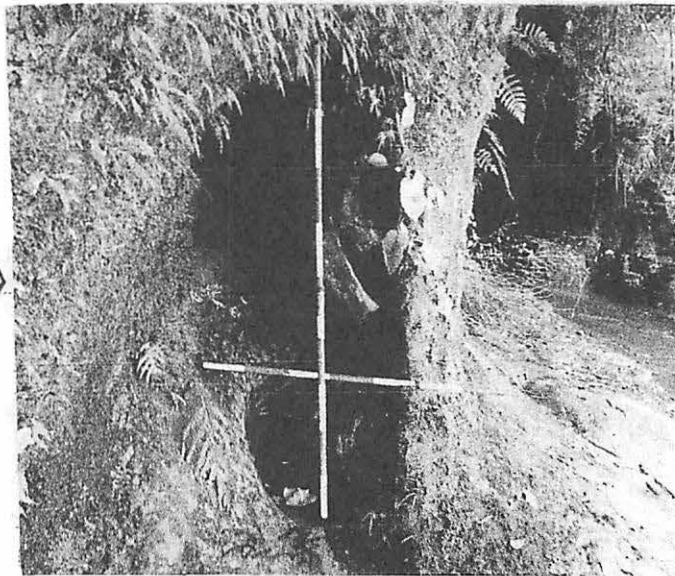


初瀬井路・もち土手横断面図

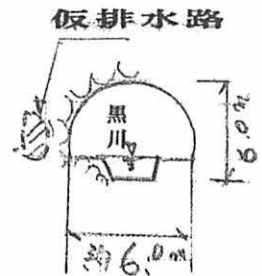


て造った構造物、もち土手は、往時のままに、水路を守り土手より下流の人達を守り続けている。

慶安3年の仮排水路



現在の隧道



一八 松平時代の水路開削

表紙にある吉明公の肖像は、いみじくも円寿寺の前住職の想像であるという。吉明公の父である高吉公の尊像は諏訪高島城にはある由、たぶんこれを参考にしたのであろうか？私はパソコンで日根野吉明公を検索したら出ました。兜の前立には家紋である洲浜の紋があり、円寿寺住職のは、頭形（ずなり）兜を参照したのであろうか、雑兵が用いる物である。将たる吉明公にはふさわしくないとと思う。

農民に愛されたとあるが、松平時代は、

朴木村井手 椿村より 天和四年

来鉢井手 貞享四年

宮苑井手 元禄六年

山ノ口井手 元禄七年

瀬口井手 元禄七年

黒野井手 元禄十二年

小狭間井手 享保二年

井手は、奉行が管理していた。

一九 初瀬井路と神社

永宝水、長宝水、初瀬河では、永宝水の水口にあたる野畑には、吉明公が中興の祖として創った熊群神社、長宝水は、長宝、山神社に日根野織部正公を祀っており、大分市野田の五所宮には、同じく吉明公を祀る。初瀬井路工事に従事した人達に依り、野田村が立村（慶安元年）した時に中尾十二社より五社を移す。賀来地区の人達

が、初瀬井路の恩に浴するとして中尾に（現初瀬井路土地改良区事務所）隣に、水神社があり永く尊崇していた。事務所は永興より中尾に移転したが、第二水配所の上に七所社がありここに、祭神を記す。大正四年の記念碑の碑文として初瀬井路の文字がある。

①大日本武命 ヤマトタケルノミコト

②天児屋根命 アメノコヤネノミコト

中臣氏祖先神、春日神、藤原家出世神

③高雷龍命 タカオカミノミコト

貴船神社の祭神であり（水神）正式には高龍命

④建御名方命 タケミナカタノミコト

諏訪大社の祭神

⑤大己貴命は大物主大神（大國主命）

少名彦命の三祭神は大神（おおみわ）神社の神であり三輪山の杉がある。なお上記諏訪大社、大神神社共に本殿の建物を持たない古代神道の形式を為し、中尾の山を賀来庄、平丸名の祭神としたのかと中尾出身の筆者は思う。

⑥別雷命 ワケイカズチノミコト

賀茂別雷神社を祀り、北の方向に、神が降臨したという神山こうやまがあり、水神である。北は玄武、亀と蛇です。

⑦表筒男命 ウワヅツオノミコト

住吉大神は水神であり農耕の神である。

賀来小中学校より約六〇〇m尾根の先端で初瀬井路と交錯する場

所に七所社が鎮座する。

長くなったが、そろそろ結論に入ろう。

農業水利偉人伝 #一〇に「日本一農民に愛された殿様」とある。これは、円寿寺前住職の言葉であろうか。松平時代には至る所で水路を開削しており、元治水井路、大龍井路等、庄内町にもあり、松平時代には日根野織部正公は忘れられた存在であった。何故なら水管理は全て水奉行が時間配水表に依り、水社会を形成していました。昭和二十年代前半より普通水利組合、土地改良区となる中で、理事長が市議会議員を輩出しています。初瀬のあゆみの末尾に、「現在も知事、市長、町長を招き」とあるが、知事は、県営工事か何かの竣工式だろう。それも選挙前、然るに市長、町長も選挙前だけは出席したかもしれない。全て代理が来るだけでしょう。

二〇 日根野家断絶

豊府聞書より、日根野吉明は府内城主たる事二十三年。その間井手の開鑿す。城下内外の諸工事、社寺の營繕等、多くの治績あつたようである。さればその逝去するや、城中領内の四民はなほだ愁い悲情の思いを焦すとある。しかるに萬壽寺乾叟の「禪余集」には左の如く記述され、領民から非常に忌避されていたとある。

「臨終発業」

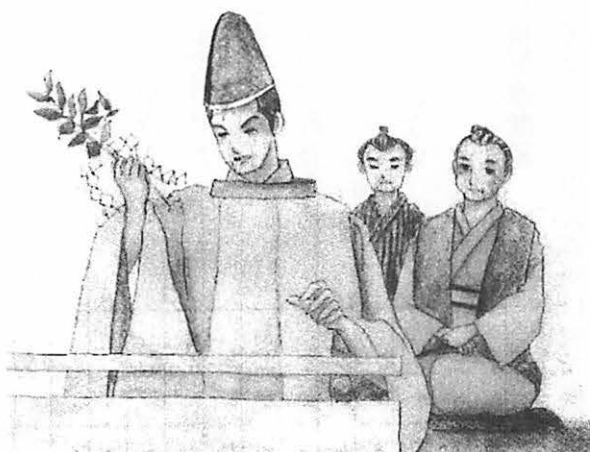
日根野吉明公は野州王生の人、容貌偉大、志気倜儻、標格これを見るべく、同列の中に褒錐す。大樹家光公謂ふ、丈夫の質ありと。寛永十年、挙げられて豊後隆国府の太守を拝し、兼て九州の事を監す。

而して府城を守護する二十四年、窮民の租税を省き、鑼鑼の梁を通じ、山澤の空地を開き、寺社の旧廢を起す。沢を時に施す、此に止まらず。然も而して強壯にして令烈しく、傲慢にして嘖多し、法を犯す者あれば敢てこれを許さず。意謂らく我を罔す故、我が令を軽んず、科の軽重なく、皆これを誅す。城外路頭、梟磔絶ゆるなし。この故に采地に止まる数千戸、民八百人を殺す。衆民怖れ怖きて、狼に牧せらるる羊の如しとす。明曆二年に至り太守逝去す。溪松院と号す。嘗て二子あり。壮年に至る此、相次いで俱に自殺す。因て以て猶子を絶つ。また即ち病死す。終に臨み嗣子なくして、系家絶ゆ。時人みな言ふ、民を殺すの現報なりと。蓋し燕人の挙燭の説か。

また、吉明公は守田山弥助を大道の堀切にて家族を父子四人成敗と云ふ。よつて、山弥助がいつも夢枕に立ち狂死した由、織部正公は山弥助より銀四千貫(約五十三億円相当)を没収。正保四年(初瀬井手通水四年前であり、山弥助六十四才であった、豊府聞書には随所に、敬神崇仏の念強く、寄進をしている。府内藩に於ける水路として、前記永宝水、上淵井手、長宝水、初瀬河、駄原井手、東院堤等を造っているが、府内藩は稀代なる貧乏藩でありこれほどの業績の源資が守田山弥助に起因しているのである。なお、日根野家の長臣(家老)が二度江戸にて、日根野家の存続を願い出たが、幕府との調整は不調に終り、長臣席を蹴るとあり、余程主君に思うところあるか、徳川除封録では厳しい仕置文である。

以上まとめると、初瀬河が四十六日間で竣工、作事奉行を中心に

初瀬ものがたり



⑤ 「なむさまんだあ、とうえんぎゃあ、ぎゃあてぎゃてえ、はらそうぎゃてえ・・・」
長いお経を上げ終えた陰陽師が、集まった村の代表に言いました。
「ずいぶん強い霊がたまっている。霊に捧げものをせねばならん。村人たちは驚いて尋ねました。
「さ・さきさきげものとは何ですか？」
「人柱を立てねばならん、さもなければ水路は出来上がらんだらうと、陰陽師が静かに言いました。

では、その人柱に、誰になってもらうのか！？

村人は何日も考えましたが、思い浮かびません。最後に陰陽師と庄屋さんが相談して、
「縦じまの着物に横じまの伏せ布を当てて着ちよる子がおったら、そんな子になっちもらおう」と決めてしまったのです。
たいへんなことになりました。

命懸けで作業したのだから。上に立つ者として毀誉褒貶はいたしかたあるまいが、苛斂誅求も度を越すと家来にも見放された。決して日本一農民に大切にされたとは言い難い。

初瀬ものがたり

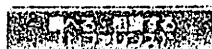


⑥ 中村・上市・下市の村人は、「縦じまの着物に横じまの伏せ布を当てている娘」を探しはじめました。
そしてついに、縦じまの着物に横じまの伏せ布を当てている、お初という可愛らしい娘を見つけ出したのです。
「お初のうちには、誰が頼みに行くのか？」
「そんなことを言うちよっても、時間がたつばかりじゃ！」
「そんなくらい俺でもわかちよる。けど、かわいそうで頼みに行くか！」
話がまとまらず、最後には、
「かわいそうじゃが、みんなのためになることじゃ。おまえたち組頭役じ行ってこい」と庄屋さんが言いました。

図書館の使い方

本を探す

個人メニュー



リンク集

[ホーム](#) > [調べる・相談する \(レファレンス\)](#) > [レファレンス事例集](#) > [大分県関係のレファレンス](#) > [初瀬井路の「お初」の伝承について](#)。

【大分】 民俗

Q.初瀬井路の「お初」の伝承について。

小学生の一団が調べに来ました。小・中学生には原則として子ども室を利用いただいています。子ども室にも「大分県コーナー」があり、児童用の県関係資料を揃えています。いきなり成人用の専門書や統計書を見て途方に暮れるより、まず児童用から調べ始めてもらう方が効率的と考えるからです。しかしながら、子ども用に平易に記された郷土資料が、必ずしも多くないのは残念なことです。

この質問も子ども室から郷土資料室へまわってきたものです。

初瀬井路は、挾間町からその下流域・大分市の田畑へ水を供給する水路の名。戦国時代末から開削が始まり、江戸時代半ばに完成しました。「初瀬」という名前は、井路を作るときに人柱となった「お初」という名の娘に因んだものといわれています。つまり、伝承であって、事実を裏付ける確実な資料は未だ確認されていません。

『初瀬井路史』には、ほぼ知られている限り収録されています。「お初」については伝承としています。『大分歴史事典』『大分今昔』も同様です。『大樹 金池小学校創立百周年記念誌』には、校区の古老の話として詳細な伝承が記述されています。

『初瀬井路史』『豊後伝説集全』には、他に清水与(與)兵衛という農民が、工事の遅れの責任をとり切腹した、という事実のあったことを記述しています。

お初が人柱にたった土手とされる周辺の地区では、今日でも毎年お盆に、お初の供養が行われているそうです。単なる伝承なのか、事実だが文書に残されていないのか、文書が発見されていないだけか、まだ判明していないようです。

小学生たちは『大分歴史事典』の中の「お初の涙が水を呼ぶ」を喜んで写して帰っていきました。供養行事をしている地元の方々などに聞き取り調査をし、その報告書などを寄贈して下さる進み行きになればよいと思います。情報がそのように繋がり合っていくことはとても大切なことです。当資料室には、各学校で作られた郷土に関する資料が、貴重な資料としてたくさん保管されています。

『初瀬井路物語り』は、最近(2005.10)出版されました。工事の過程や、大雨のたびに決壊していた黒川の土手に人柱となった「お初」の一族の話を軸に、時代背景や農民の暮らしの様子も分かりやすく解説しています。「子どもたちが郷土の歴史を調べる際の参考になれば」という著者の思いの籠もる力作です。

参考資料

- 『初瀬井路史』 初瀬井路土地改良区 1966年 (K614/H42)
- 『大分歴史事典』 大分放送 1990年 (K200.3/O34)
- 『豊後伝説集全』 郷土史蹟伝説研究会 1932年 (K388/I13)
- 『大分今昔 2版』 渡辺克己 大分合同新聞社 1983年 (K242/W46)
- 『大樹 金池小学校創立百周年記念誌』 1988年 (K376.2/KA44)
- 『初瀬井路物語り』 會根崎昭三 2005年 (K614/SO36)

キーワード

- 初瀬井路

二二 府内藩村高変遷

1644 付表 府内藩領の村高変遷(102ヶ村) 1688 1830 102 単位:石

| | 正保4年(1647) | 明暦3年(1657) | 元禄14年(1701) | 天保5年(1834) | 明治初年 |
|--------------|--------------|----------------------|--------------|---------------|---------------|
| | 正保郷帳 | 御取ヶ郷帳 | 元禄郷帳 | 天保郷帳 | 旧高旧領取調帳 |
| 町 | 府内 1201.953 | 府内町 1185.426 | 府内町 1185.426 | 府内町 1200.768 | 府内町 1203.912 |
| | 笠和村 312.478 | 笠和町 320.973 | 笠和町 320.973 | 笠和町 321.708 | 笠和町 321.708 |
| | 千手堂 247.186 | 千手堂町 247.279 | 千手堂町 247.279 | 千手堂町 258.691 | 千手堂町 268.273 |
| | 松末 529.268 | 松末町 541.344 | 松末町 558.106 | 松末町 562.4902 | 松末町 563.6242 |
| | 同慈寺 152.11 | 同慈寺町 155.061 | 同慈寺町 155.061 | 同慈寺町 155.061 | 同慈寺町 156.181 |
| | | | | | 南勢家町 449.835 |
| | 勢家村 857.54 | 勢家町 880.285 | 勢家町 886.107 | 勢家町 914.6151 | 勢家町 485.6045 |
| | 駄原村 1087.516 | 駄原町 1101.931 | 駄原村 1141.475 | 駄原村 1174.8873 | 駄原村 1176.6553 |
| | 生石村 256.702 | 生石村 262.123 | 生石村 265.963 | 生石村 268.591 | 生石村 268.8535 |
| | 今津留村 101.13 | | 今津留村 101.13 | 今津留村 416.946 | 今津留村 466.448 |
| | 中津留村 278.535 | | 中津留村 278.535 | 中津留村 339.463 | 中津留村 373.769 |
| | 花津留村 26.98 | | 花津留村 26.98 | 花津留村 55.405 | 花津留村 99.833 |
| | 牧村 228.49 | | 牧村 228.49 | 牧村 341.16 | 牧村 350.4511 |
| | 萩原村 104.889 | | 萩原村 104.889 | 萩原村 207.003 | 萩原村 229.647 |
| 里 | 下郡村 1088.691 | | 下郡村 1088.691 | 下郡村 1124.217 | 下郡村 1148.951 |
| | 羽田村 377.952 | | 羽田村 *377.952 | 羽田村 *434.145 | 羽田村 429.289 |
| | 六坊村 125.137 | 六坊村 129.472 | 六坊村 129.88 | 六坊村 132.042 | 六坊村 132.042 |
| | 律院村 142.463 | 律院村 155.549 | 律院村 155.609 | 律院村 163.3457 | 律院村 163.4037 |
| | 豊饒村 211.636 | 豊饒村 214.555 | 豊饒村 214.555 | 豊饒村 228.6646 | 豊饒村 229.7276 |
| | 島中村 218.588 | 島中村 224.716 | 畑中村 225.431 | 畑中村 260.394 | 畑中村 263.75 |
| | 古国府村 402.803 | 古国府村 415.474 | 古国府村 436.899 | 古国府村 492.145 | 古国府村 501.902 |
| | 羽屋村 666.219 | 羽屋村 672.696 | 羽屋村 673.371 | 羽屋村 698.543 | 羽屋村 701.187 |
| | 泰平寺村 262.704 | 太平寺村 276.466 | 太平寺村 277.531 | 大平寺村 283.713 | 大平寺村 283.723 |
| | 尼ヶ瀬村 65.918 | 尼ヶ瀬村 65.918 | 尼ヶ瀬村 65.918 | 尼ヶ瀬村 69.943 | 尼ヶ瀬村 69.943 |
| | 奥小路村 144.406 | 奥小路村 146.886 | 奥小路村 146.886 | 奥小路村 172.294 | 奥小路村 173.878 |
| | 上村 429.953 | かミ村 567.263 | 上村 568.653 | 上村 600.894 | 上村 600.894 |
| | 竹上村 32.096 | 竹ノ上村 39.782 | 竹上村 61.49 | 竹上村 69.791 | 竹上村 70.252 |
| | 田中村 423.001 | 田中村 423.93 | 田中村 424.042 | 田中村 429.206 | 田中村 429.206 |
| | 永興村 309.158 | 永興村 332.444 | 永興村 333.204 | 永興村 335.755 | 永興村 335.755 |
| | 井蕪村 4.812 | 井のかぶ村 9.302 | 井蕪村 9.522 | 井蕪村 10.779 | 井蕪村 10.777 |
| | 市村 1087.547 | 賀来村 1127.979 | 賀来村 1144.142 | 賀来村 1193.525 | 賀来村 1196.862 |
| | 中尾村 282.936 | 中尾村 329.89 | 中尾村 371.832 | 中尾村 419.045 | 中尾村 419.045 |
| | | 野田・中ノ原 富長村 89.606 | 野田村 148.068 | 野田村 172.92 | 野田村 172.92 |
| | 中郷 | 田浦村 234.63 | 田浦村 238.725 | 田浦村 247.251 | 田浦村 261.546 |
| 白木村 84.466 | | 白木村 89.945 | 白木村 96.04 | 白木村 113.439 | 白木村 113.472 |
| 大山村 49.621 | | 大山村 50.192 | 大山村 55.784 | 大山村 62.375 | 大山村 62.375 |
| 志手村 75.473 | | 志手村 76.76 | 志手村 77.265 | 志手村 78.074 | 志手村 78.074 |
| 権迫村 321.941 | | 権迫村 334.506 | 権迫村 352.536 | 権迫村 360.42 | 権迫村 360.42 |
| 来鉢村 474.41 | | 来鉢村 511.121 | 来鉢村 536.825 | 来鉢村 644.551 | 来鉢村 644.551 |
| 上金谷迫村 48.412 | | 金谷迫村 144.858 | 金谷迫村 156.008 | 金谷迫村 164.591 | 上金谷迫村 58.28 |
| 下金谷迫村 88.54 | | | | | 下金谷迫村 106.465 |
| 由原村 303.94 | | 由原村 305.982 | 由原村 314.758 | 由原村 326.496 | 柞原村 326.556 |

府内藩

一五四

1644

1688

1830

付
表

| | 正保郷帳 | 御取ヶ郷帳 | 元禄郷帳 | 天保郷帳 | 旧高旧領取調帳 |
|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 中 | 黒野村 118.392 | 黒野村 133.294 | 黒野村 146.617 | 黒野村 176.68 | 黒野村 176.68 |
| | 古原村 29.402 | 古原村 31.857 | 古原村 33.676 | 古原村 42.662 | 古原村 42.662 |
| | 三舟村 207.386 | 三船村 212.576 | 三船村 219.741 | 三船村 243.678 | 三船村 244.926 |
| | 東院村 493.168 | 東院村 501.361 | 東院村 530.808 | 東院村 595.283 | 東院村 595.283 |
| | 七曾子村 66.105 | 七曾子村 72.113 | 七曾子村 73.861 | 七曾子村 81.476 | 七蔵司村 81.476 |
| | 内成村 492.473 | 内成村 510.962 | 内成村 526.032 | 内成村 595.047 | 内成村 595.047 |
| | 宮園村 382.912 | 宮園村 387.494 | 宮苑村 392.654 | 宮苑村 400.003 | 宮苑村 402.817 |
| | 新村 8.312 | 新村 19.044 | 新村 25.072 | 新村 32.311 | 新村 32.311 |
| | 高崎村 164.956 | 高崎村 174.701 | 高崎村 174.701 | 高崎村 181.616 | 高崎村 181.616 |
| | 山口村 97.253 | 山口村 103.98 | 山口村 105.014 | 山口村 109.493 | 山口村 109.493 |
| | 中畑村 33.582 | 中畑村 33.702 | 中畑村 36.622 | 中畑村 40.141 | 中畑村 40.141 |
| | 平床村 56.191 | 平床村 60.406 | 平床村 63.269 | 平床村 71.155 | 平床村 71.235 |
| | 田代村 53.556 | 田代村 56.152 | 田代村 66.283 | 田代村 82.0 | 田代村 82.0 |
| | 埴坪村 47.562 | 埴坪村 47.562 | 埴坪村 49.797 | 埴坪村 61.315 | 埴坪村 61.315 |
| | 時松村 117.273 | 時松村 117.275 | 時松村 157.3835 | 時松村 192.547 | 時松村 194.067 |
| | 朴木村 70.553 | 朴木村 73.786 | 朴木村 88.699 | 朴木村 124.362 | 朴木村 124.362 |
| | 小野津留村 285.604 | 小野津留村 352.962 | 小野津留村 352.962 | 小野津留村 421.328 | 小野津留村 429.714 |
| | 国分村 338.311 | 国分村 413.796 | 国分村 413.796 | 国分村 486.544 | 国分村 494.697 |
| | 平横瀬村 108.91 | 平横瀬村 157.42 | 平横瀬村 157.42 | 平横瀬村 172.805 | 平横瀬村 173.945 |
| | 下市村 320.249 | 下市村 402.474 | 下市村 402.474 | 下市村 418.924 | 下市村 419.204 |
| | 上市村 300.652 | 上市村 332.626 | 上市村 332.626 | 上市村 337.815 | 上市村 337.815 |
| | 鶴田村 129.464 | 鶴田村 142.917 | 鶴田村 142.917 | 鶴田村 155.645 | 鶴田村 156.123 |
| | 向原村 76.296 | 向原村 88.266 | 向原村 88.266 | 向原村 103.848 | 向原村 104.089 |
| | 中村 39.226 | 中ノ村 46.053 | 中村 46.053 | 中村 53.969 | 中村 53.969 |
| | 海老毛村 45.526 | 海老毛村 51.196 | 海老毛村 51.196 | 海老毛村 72.082 | 海老毛村 72.082 |
| | 郷 | 蛇口村 157.052 | 蛇口村 244.142 | 蛇口村 244.142 | 蛇口村 268.534 |
| 櫛木村 145.406 | | 櫛木村 156.96 | 櫛木村 156.96 | 櫛木村 182.637 | 櫛木村 182.637 |
| | | 五福村 61.643 | 五福村 61.643 | 五福村 73.266 | 五福村 73.497 |
| 久保村 112.858 | | 久保村 121.044 | 久保村 130.038 | 久保村 141.771 | 久保村 141.771 |
| 岩下村 54.582 | | 岩下村 69.048 | 岩下村 90.6385 | 岩下村 113.401 | 岩下村 113.401 |
| 須木内村 52.223 | | 透内村 58.586 | 透内村 58.586 | 透内村 92.157 | 透内村 92.67 |
| 甲斐田村 234.136 | | 甲斐田村 240.16 | 甲斐田村 240.16 | 甲斐田村 284.205 | 甲斐田村 284.662 |
| 桑畑村 45.394 | | 桑畑村 45.394 | 桑畑村 45.394 | 桑畑村 48.946 | 桑畑村 48.946 |
| 小原村 169.141 | | 小原村 169.141 | 小原村 169.141 | 小原村 183.117 | 小原村 186.741 |
| 東家村 133.092 | | 東家村 133.092 | 東家村 133.092 | 東家村 173.483 | 東家村 179.742 |
| 六良丸村 197.948 | | 六郎丸村 204.028 | 六郎丸村 204.028 | 六郎丸村 223.136 | 六郎丸村 223.136 |
| 雲鳥村 110.08 | | 雲取村 117.875 | 雲取村 117.875 | 雲取村 129.699 | 雲取村 129.699 |
| 平良石村 158.973 | | 平良石村 160.979 | 平良石村 160.979 | 平良石村 171.499 | 平良石村 171.851 |
| 中無礼村 32.078 | | 中無礼村 32.078 | 中無礼村 32.078 | 中無礼村 32.242 | 中無礼村 32.542 |
| 武宮村 227.572 | | 武宮村 229.482 | 武宮村 229.482 | 武宮村 244.226 | 武宮村 245.678 |
| 橋爪村 234.484 | | 橋爪村 242.232 | 橋爪村 242.232 | 橋爪村 282.763 | 橋爪村 282.863 |
| 葛原村 135.382 | | 葛原村 137.702 | 葛原村 137.702 | 葛原村 148.048 | 葛原村 148.048 |
| 畠田村 370.49 | | 畑田村 378.536 | 畑田村 378.536 | 畑田村 411.532 | 畑田村 411.532 |
| 中尾村 73.178 | | 中尾村 73.426 | 中尾村 73.426 | 中尾村 77.996 | 中尾村 77.996 |
| 奥 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

一五五

日根野吉明 Hineno Yoshiaki



日根野吉明 Hineno Yoshiaki (1587年 - 1656年)



初瀬井路という名前の由来

初瀬井路は、山間地を流れており、途中に小川が多岐あり、小川を越えて井路を築くため、「持ち土手」(昔の治水機)を築く必要がありました。

中でも、黒川の持ち土手は、何度も決壊し、これに手を焼いた村人が隣藩に相談したところ、「藩領の官物に横領の咎で伏せをした罪物を着た城を人柱に立てない限り、井路はできあがらない」と言われ、下市地区に住んでいた「お初」という娘が人柱に立つことになりました。

井路の工事はその後々と進み、それ以降350年以上経過しても一度も持ち土手が崩れることはなく、今日に至っています。

その後、お初になると地元の人々は、お初の霊を仰ってきました。

また、お初の名にちなみ、阿南庄新井路のことを「初瀬川」と称し、官渠井路とあわせて「初瀬井路」と呼ぶようになりました。

円寿寺と初瀬井路

夏休みの自由研究で、萱島君と史跡調べをしました。大分市には、数多くの史跡があるのに大変驚きました。中でも元町石仏の大きな薬師如来像は、とても印象的でした。

元町石仏は、岩屋寺石仏と共に、その昔は円寿寺の境内だったそうです。そのような広大な境内を持っていた円寿寺は、今では、願かけ不動尊として親しまれています。先日見学に行った時、巻物等の文化財がたくさん納められていました。

境内には、「初瀬井路」の記念碑があります。 「初瀬井路」は、府内城主吉明の時に、多くの民の労働と、水との闘いがくり返され、お初という娘を人柱にして、やっと完成したそうです。

地図を見ながら史跡巡りをして行くうちに、建物や記念碑の、一つ一つから昔の人の生活やお話がわかり、大変面白かったです。

六年 松本 英士



二五 あとがき

人の命は地球よりも重いと云う人もいる中で、命の重さを説くべき聖職者達（医師、教育者、僧侶等）は、「お初」なる娘がいたという事に違和感を抱かなかつたのでしょうか。豊の国ライブラリーには、大分歴史事典（OBS社刊¥二七、〇〇〇）の中の「お初の涙が水を呼ぶ」を喜んで写して帰っていききました。とあり、人を生きながら埋めた事を喜ぶべきと何故言うのか、上記聖職者が、本にし、活字にする。朱子学の発達し、儒教を国教とした李氏朝鮮王朝の時代では無い。

哀話となつているが、「お初」の親兄弟、親せき等は悲しまなかつた様に、井元氏は書いています。伝説に依ればとして縦縞の着物に横縞の……とあるが、本来はアメ色（肥後牛）の牛を引いた娘となつていた。私は東証一部上場の会社に十二年間在職。土地改良区に技術者募集の話があり、妻も種田地区の出身なので、大分にUターンした。当時実家は、皆と同じ様に五反百姓、牛を四〜五頭飼育していました。牛には血統書があり、牡は漢字、牝はひらがな、鼻紋登録があり、登録点は一／一〇〇刻みです。肥後牛（アメ色牛）は、ここから一二〇kmの阿蘇に多い。江戸時代にDNAがどうして来たのでしょうか？私が生まれた中尾に、挾間町阿鉢出身で養子に来ていた校長先生がいた。この方の親戚が狛犬を大将軍神社に寄進している。古来より牛馬を祀るとあり、細川侯の馬の逸話と混同していたのでしょう。土地改良区の人達も、「アメ色の牛」はおろか「お初」も無い事は大抵の人が判つていながら、皆サラリーマンであり、敢えて嫌う事は言わなかつた様である。然し私は「アメ色の牛」は変だと思ひ、話をしたら、ここは削除して現在に至つては、かしわの区史に、挾間町史七五八ページに「長者屋敷の婆さんとアメが牛淵とあるが、井元氏の作文であると本人がかしわの区史に書いてい

が、アメ色の肥後牛、赤牛」とあり、長者屋敷と言ひ小判、財宝を積んで牛と共に一緒に淵に沈んだとあるが、柏野村は本来七十五石です。むろん小判は流通せず、一分銀四枚で一両であり、庶民は一生小判など見るべくも無いのである。私の意見ではあるが、阿女ヶ牛淵とはアメ色の牛では無く、雨乞いを行つていた淵ではなからうか。静岡に於いては、龍・蛇・牛を水神として同一視している様である。而し佐倉市の青池は牝牛を捧げていたが、常に殺生禁ずであり大牛を造りて、池の主弁財天に捧げ水穴に入れる。七ヶ所の水穴現れて、清水吹き出すとあり、阿女ヶ牛淵とは雨乞いと関連があつたと思います。町誌七五八（柏野老人クラブ）、七六〇（上市老人クラブ）として、おそらく、井元氏の寄稿に依るものだろう。

むずびとして、私は準備の無い所に、何事も成功は無い。つまり水路を造るといふ事は、綿密な施工計画、積算等を行い、必ず複数の目を通過して行く。

お初に関しては、いくつの複眼があつただろうにと思ふ。

彼の人のこれも一度で完通成功したことは書かれていない様だ。危険個所あり云々とある。何度も書くが、アクアライン（川崎〜千葉木更津の沈埋トンネルの接合誤差は二十m/m（二cm）であり、私も昭和五十四年当時、主任技術者として、神奈川県海老名市に於いて、施工した下水道推進工事（小口径推進・アイアンモール工法）地下八m、延長六十四mをゆ四五〇m/mを三十cmストロークで推します。発進坑より到達坑で、鋼矢板を鏡切をします。精度はプラスマイナス十五m/m以内（一・五cm）です。必ず夜二回マシンを地切りをします。土と密着して動かなくなるからです。技術者（作事奉行）の精神を知らずして、適当なる文章を書いた人に悲憤慷慨の念を禁じ得ないのであります。